

特別栽培米「奥出雲千石米 つや姫」栽培ごよみ（大東町・加茂町・木次町・三刀屋町）

■栽培での注意事項

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																			
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25															
生育段階・区分	育 苗					活 着					有 効 分 げ つ					無効分げつ					幼穂形成					穂ばらみ					登 熟														
播 種	播 種					田 植					決定分げつ期					最高分げつ期					穎花分化期					減数分裂期					穂ばらみ期					出穂期					成熟期				
水管理						灌水					灌水					灌水					灌水					灌水					灌水					灌水									
技術内容	粒状ミネリッチ ホスピタ 堆肥施用 深耕 稲わら腐熟 ◎健康な苗づくりを！ ・できるだけ外気温にならして健苗育成 ・硬化期は温度管理に注意しながら ・薄まきの励行（乾籾1000〜1200g/箱）					◎元肥はひかえめに！ ・有機物多用田では減肥 優作					◎水管理の徹底！ ・中干し（一株一本になった時） ・作溝の実施					◎減肥は適期に適量を！ 優作 〈出穂前二五日・幼穂長約〇・五mm〉					◎減数分裂期が低温の時は深水管理 優作					◎穂いもち防除 〈出穂前二〜三日〉					◎カメムシ防除 ◎仕上げは万全に！					◎適期落水 ・出穂後三〇日程度は高断かん水					◎稲わら腐熟促進 ・網目一・八五〜一・九〇使用 水分一四・〇〜一五・〇％ ・適正な乾燥（急激な乾燥は避けゆっくりと） 青味粉率一〇〜一五％ ・適期刈り取り				

栽培目標	多収を第一とせず、粒張りの良い玄米生産を心がけ、バランスのとれた収量構成要素の実現及び登熟向上を図る。
土づくり	粗大有機物は完熟堆肥を1.0t程度施用する。ただし、集積状況、土壌診断結果に基づいて決定する。深耕は18cmを目安とする。
施肥	肥料は極力有機質肥料を使用。施肥量は化学肥料窒素成分量で10a当り4.0kg以下とする（コシヒカリ以外）。
育苗・田植	薄播き（乾籾100〜120g）健苗育成に努め、1株3〜4本植とする。
水管理	水管理を通じて生育調節、根の健全化、地力窒素の活用等の効果を高める。
病虫害防除	調和のとれた土づくり、健苗育成等の耕種改善による健康な稲体作りを基本とし、防除は畦畔の草刈等耕種防除をまず実施する。農薬を使用する場合は、防除剤、種子消毒剤を含めJA雲南が指定した薬剤を使用する。なお、指定薬剤以外の薬剤防除が必要な状況が生じた場合は、関係者が協議し、その結果基準値を上回る追加防除を行ったほ場の米は慣行栽培米扱いとする。

■施肥設計（10a当り）

粒状肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	穂肥	成分量(kg)			
			窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量					
堆肥	(※) 1,000					
粒状ミネガード	100		4.0			4.0
優作	30		3.0 (1.5)	3.0	3.0	
ホスピタ	40			2.0		4.6
優作		30	3.0 (1.5)	3.0	3.0	
合計			6.0 (3.0)	12.0	6.0	8.6

一発肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	成分量(kg)			
		窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量				
堆肥	(※) 1,000				
粒状ミネガード	100		4.0		4.0
すご稲有機355	50	6.5 (3.25)	2.5	2.5	
ホスピタ	40		2.0		4.6
けい酸加里プレミアム34	40			8.0	1.6
合計		6.5 (3.25)	9.5	4.0	9.1

ペースト肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	穂肥	成分量(kg)			
			窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量					
堆肥	(※) 1,000					
粒状ミネガード	100		4.0			4.0
有機50ニューフレーバー10	30		3.0 (1.5)	1.2	0.9	
ホスピタ	40			2.0		4.6
優作		30	3.0 (1.5)	3.0	3.0	
合計			6.0 (3.0)	10.2	3.9	8.6

(※) 堆肥の施用量については、土づくりの集積状況や土壌診断に基づいて決定する。

■農薬使用基準（成分回数10以内）

注1) ○内の数字は成分回数を表します。
 注2) 農薬使用基準を正しく守りましょう！

種子消毒剤	エコ米の種籾は原則として、無消毒種子を用い、温湯消毒や微生物農薬などを使用する。	
育苗箱施薬	スタウトダントツ箱粒剤②	
除 草 剤	初期	ピラクロンフロアブル①又は、ピラクロン1キロ粒剤①
	初中期	ビクトリーZジャンボ②又は、ビクトリーZ1キロ粒剤②
	ヒエ対策	ヒエクリーン1キロ粒剤①
	後期	バサグラン粒剤①
本 田 防 除	【出穂前】 〈いもち病・紋枯病・カメムシ類〉 アミスタートレボンSE② トレボン粉剤DL①	どちらか1回
	【出穂後】 〈カメムシ・ウンカ〉 スタークル粉剤DL① 又は、スタークル液剤10①	

特別栽培米「奥出雲千石米 つや姫」栽培ごよみ（吉田町・掛合町）

■栽培での注意事項

月	4 月					5 月					6 月					7 月					8 月					9 月																			
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25															
	育 苗					活 着					有 効 分 げ つ					無効分げつ					幼穂形成					穂ばらみ					登 熟														
生育段階・区分	播 種					田 植					決定分げつ期					最高分げつ期					穎花分化期					減数分裂期					穂ばらみ期					出穂期					成熟期				
水管理																																													
技術内容	<p>粒状ミネリッチ ホスピタ 堆肥施用 深耕 稲わら腐熟</p> <p>◎健康な苗づくりを！</p> <p>できるだけ外気温にならして健苗育成 ・硬化期は温度管理に注意しながら ・薄まきの励行（乾粉1000〜1200g/箱）</p> <p>◎元肥はひかえめに！</p> <p>・有機物多用田では減肥 優作</p> <p>◎植え付けは適正に！</p> <p>・有機物多用田では減肥 優作</p> <p>◎水管理の徹底！</p> <p>・中干し（一株一本になった時） ・作溝の実施</p> <p>◎減数分裂期が低温の時は深水管理</p> <p>◎穂肥は適期に適量を！</p> <p>優作 〈出穂前二五日・幼穂長約〇・五mm〉</p> <p>◎カメムシ防除</p> <p>◎仕上げは万全に！</p> <p>◎穂いもち防除 〈出穂前1〜三日〉</p> <p>・適期落水 ・出穂後三〇日程度は高断かん水</p> <p>・稲わら腐熟促進 ・網目一・八五〜一・九〇使用 水分一四・〇〜一五・〇％ ・適正な乾燥（急激な乾燥は避けゆっくりに） 青味粉率一〇〜一五％ ・適期刈り取り</p>																																												

栽培目標	多収を第一とせず、粒張りの良い玄米生産を心がけ、バランスのとれた収量構成要素の実現及び登熟向上を図る。
土づくり	粗大有機物は完熟堆肥を1.0 t程度施用する。ただし、集積状況、土壌診断結果に基づいて決定する。深耕は18cmを目安とする。
施肥	肥料は極力有機質肥料を使用。施肥量は化学肥料窒素成分量で10 a 当り4.0kg以下とする（コシヒカリ以外）。
育苗・田植	薄播き（乾粉100〜120g）健苗育成に努め、1株3〜4本植とする。
水管理	水管理を通じて生育調節、根の健全化、地力窒素の活用等の効果を高める。
病虫害防除	調和のとれた土づくり、健苗育成等の耕種改善による健康な稲体作りを基本とし、防除は畦畔の草刈等耕種防除をまず実施する。農薬を使用する場合は、防除剤、種子消毒剤を含めJA雲南が指定した薬剤を使用する。なお、指定薬剤以外の薬剤防除が必要な状況が生じた場合は、関係者が協議し、その結果基準値を上回る追加防除を行ったほ場の米は慣行栽培米扱いとする。

■施肥設計（10a当り）

粒状肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	穂肥	成分量(kg)			
			窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量					
堆肥	(※) 1,000					
粒状ミネガード	100		4.0			4.0
優作	30		3.0 (1.5)	3.0	3.0	
ホスピタ	40			2.0		4.6
優作		30	3.0 (1.5)	3.0	3.0	
合計			6.0 (3.0)	12.0	6.0	8.6

一発肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	成分量(kg)			
		窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量				
堆肥	(※) 1,000				
粒状ミネガード	100		4.0		4.0
すご稲有機355	50	6.5 (3.25)	2.5	2.5	
ホスピタ	40		2.0		4.6
けい酸加里プレミアム34	40			8.0	1.6
合計		6.5 (3.25)	9.5	4.0	9.1

ペースト肥料体系

（ ）内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	元肥	穂肥	成分量(kg)			
			窒素	リン酸	加里	苦土
生わら	全量					
堆肥	(※) 1,000					
粒状ミネガード	100		4.0			4.0
有機50ニューフレーザー10	30		3.0 (1.5)	1.2	0.9	
ホスピタ	40			2.0		4.6
優作		30	3.0 (1.5)	3.0	3.0	
合計			6.0 (3.0)	10.2	3.9	8.6

(※) 堆肥の施用量については、土づくりの集積状況や土壌診断に基づいて決定する。

■農薬使用基準（成分回数10以内）

注1) ○内の数字は成分回数を表します。
注2) 農薬使用基準を正しく守りましょう！

種子消毒剤	エコ米の種扱は原則として、無消毒種子を用い、温湯消毒や微生物農薬などを使用する。	
育苗箱施薬	スタウトダントツ箱粒剤②……播種同時も可能	
除草剤	初中期	ビクトリーZジャンボ②又は、ビクトリーZ1キロ粒剤②
	中後期	フォローアップ1キロ粒剤②又は、ワイドアタックSC①
	ヒエ対策	クリンチャー1キロ粒剤①又は、クリンチャーEW①
本田防除	【出穂前】 〈いもち病・紋枯病・カメムシ類〉 アミスタートレボンSE② トレボン粉剤①	どちらか1回
	【出穂後】 〈カメムシ・ウンカ〉 スタークル粉剤DL① 又は、スタークル液剤10① 又はスタークル豆つぶ①	